

# 西九州大学における産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業の取組

西九州大学は、産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業インターンシップグループに所属し、「インターンシップの高度化」をテーマに、効果的かつ継続可能なインターンシップ実施のためのモデルプログラム開発を目標に取組を実施。また、海外インターンシップの実施による種類拡張や、インターンシップを下支えするための取組としてのプレインターンシップ（必修科目）の実施など、多様な高度化の取組を行っている。

## 取組の概要 I（プログラムの高度化）

●授業科目名：あすなろう体験Ⅱ（実践）

●対象 象：健康福祉学部 2年生  
リハビリテーション学部 2年生

●概要 要：インターンシップグループで開発したプログラムを参考に、本学の実情に合わせてカスタマイズしたインターンシッププログラムを検証し、「受入先の企業等にとって受け入れたいと思われるような魅力あるプログラム」の作成を行う。

●取組事例：本学およびNPO法人鳳雛塾と共同でインターンシッププログラムおよび評価表のカスタマイズを行い、実働7日間の課題解決型プログラムを佐賀市役所にて実施した。受入先より、「イベント来客者の佐賀駅から街中への誘導方法」というテーマを頂き、現地調査および情報収集を行ない、最終日には調査結果の報告および課題に対する提案を行った。受入先にはプログラム実施に対し前向きに取り組んでいただいたが、インターンシップ終了後に、「短期間でどのような成果を求めて良いのかわからない」等のコメントをいただいた。また、開発した評価表の適用が難しく、業種別で評価表があれば良いのではないかとの意見もいただいたが、今年度は、授業評価グループのメタルブリックを参考として、汎用的能力に限定したより汎用性の高い評価表を作成し、プログラムに反映させることとしている。



インターンシップ先での成果プレゼンの様子  
（課題解決型プログラム）@佐賀市役所

＜インターンシップ受け入れの現状＞		学生	大学	産業界（企業・NPO等）	自治体
1. 日程の調整	受け入れの日数、時期、期間を決定します。	○	○	○	○
2. プログラムの選定	基本となるプログラムとして、「高齢者ケアプログラム」「課題解決型プログラム」「アタラシイ企画プログラム」、オプションプログラムとして「改善の企画（特例）」「産業界とのコラボ」を準備しています。業種によってやりやすいプログラムをお選びください。	○	○	○	○
3. スケジュールの作成	決まったインターンシップのスケジュールを作成させていただきます。リーフレットを参照しながらタイムスケジュールを作成します。	○	○	○	○
4. 評価基準の作成	インターンシップの体験内容に沿って評価表を作成します。作成した評価表は社会人基礎能力に準拠して評価しています。	○	○	○	○
5. 学生の受け入れ評価	実際に学生を受け入れ評価をして頂きます。	○	○	○	○

開発プログラムの一部

評価表の一例

※NPO法人鳳雛塾とは、地域活力の最大の資源である人材に着目し、地域の将来を担う「ひとづくり活動」を行っている団体であり、佐賀県内の教育機関でキャリア教育、産学官の連携事業等のサポートを行っている。

## 取組の概要Ⅱ(海外インターンシップ)

- 授業科目名：あすなろう体験Ⅱ（実践）
- 対 象：健康福祉学部 2年生
- 概 要：インターンシップの種類を拡大することによってその高度化を実現するという視点から、海外インターンシッププログラムを設定し、実際に学生を海外企業へと送り出した。このプログラムは海外の連携先を拡大することによって今後も継続する予定である。
- 取組事例：タイ王国日本企業へのインターンシップ学生派遣  
平成25年度にタイ王国SANOHインダストリーズに本学健康栄養学科学生2名を派遣した。12日間の派遣であった。インターンシップ中には現地日本人会でのサービスラーニング活動を実施し、日本人祭りの運営サポートも行った。



シラチャ日本祭り運営サポート



11/16(土)~11/27(水)  
インターンシップ期間：11/18~11/24



インターンシップ先での就労の様子

# 取組の概要Ⅲ(プレインターンシップ)

●授業科目名：あすなろう体験Ⅰ（基礎・必修） 同体験Ⅲ（応用実践・選択）

●対象：全学部 1年生 3・4年生

●概要：学生の就業力を高める基礎力養成の機会として、産業界を含む様々な学外ステークホルダーとの間で、学生の学外体験活動を実施。この活動を経ることで学生は幅広い視野を獲得するとともに、学外での実践活動に対する馴致を行うことが可能となる。この体験を経ることで、2年時以降のインターンシップに向かう際の対人基礎力、対課題基礎力を養うことを目的として実施している。平成25年度にはのべ3300名程度の活動実績を上げることができている。一人平均8回程度の活動を行ったことになる。活動内容は、ボランティア等のサービスラーニングが主体となっており、近隣自治体で行われる様々なイベント等で企画段階、実施段階、事後処理等における貴重な戦力となっている。

●活動事例：

サガン鳥栖ホームゲーム のべ185名  
チケット券種確認、ごみ回収、場内整備、来場者誘導、プログラム配布等のホームゲームに係わる作業全般

「サガ・ライトファンタジー」イルミネーション企画・作業 のべ29名  
佐賀市役所商業振興課  
イルミネーション企画・作業

城原川ハンギー祭りのボランティア募集 のべ39名 城原川ハンギーまつり実行委員会  
ハンギー祭りでの係の補助

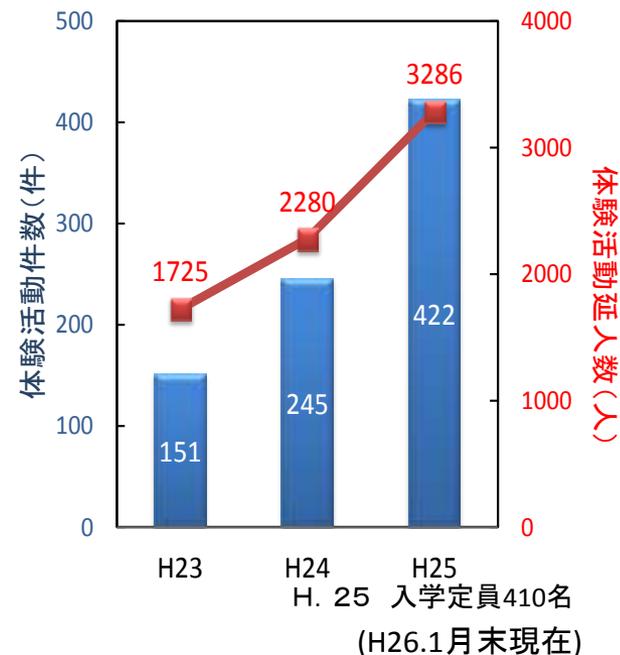
かんざき宿場まつり のべ29名 長崎街道かんざき宿場まつり実行委員会  
ゲーム・打ち水作戦・お化け屋敷、ゆるキャラ等の運営

佐賀城下栄の国まつり運営ボランティア のべ40名 佐賀城下栄の国まつり振興会  
進行補助、誘導係、受付補助、会場設営補助、清掃等

神埼櫛田の市まちなかおせったい活動 のべ270名 CSOかんざき  
地域活性化に向けた学生によるまちおこし活動

## あすなろう体験Ⅰ 取組実績

### あすなろう体験Ⅰ 体験活動件数及び 体験活動延人数の推移



### あすなろう体験Ⅲ実績 H. 25 (地域参画型、プロジェクト型)

学科	履修人数 (人)
健栄	3
社福	9
合計	12

**大学等名：西九州大学（連携自治体：佐賀県、佐賀市、神埼市、小城市、吉野ヶ里町）**  
**事業名：コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト**

**プロジェクトの概要**

西九州大学は佐賀大学と共に、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員による実践的な教育・研究を通して、地（佐賀県全域）と知（教育研究）のアクティベーション（活性化）を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。両大学は、地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的な連携プロジェクトを実施しています。

**(H)介護（認知症）予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム**

学生と教員が連携自治体において実施する心身機能調査  
 ⇒認知症等の早期発見、参加学生の修学意欲、地域社会への参画意識の醸成  
 佐賀大学プロジェクトGと連携



**地域課題解決へ向けた5プログラムを展開**

**連携自治体が抱える諸課題**

- ・地場産業振興  
 特に地場産品活用（6次化）
- ・中心市街地活性化  
 空き店舗活用、賑わいづくり等
- ・保健・医療事業の充実  
 認知症予防・介護予防
- ・食育・子育て支援
- ・まちなかでの安心生活実現
- ・地域住民のコミュニティ参画 等々



**【連携自治体での取組の実績・目標】**

	H.26前期実績	H.29目標値
フィールド展開授業数	25講座	30講座以上
フィールド授業参画学生延べ数	745名	1780名
地域活動に関心をもち学生割合	65%	78%
地域課題解決教育研究に関心をもち教員の割合	26.2%	36.4%
地域住民のCOC事業への認知度	53.5% (佐賀市のみ)	64.2%
学生地域活動（活動感想）による評価（肯定評価）	93.3% (N=24) (佐賀市のみ)	80%

**(I)保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム**

専門職業人（栄養・福祉・リハビリ・子ども教育）の育成を、地域課題解決型授業を実施することで実現⇒特定検診受診率UP作戦、食育事業の展開等



**(J)「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり**

健常者のみならず、障がいのある方など地域で暮らす全ての人々が相互に関わる「場」や「機会」を創出できる人材「街なかサポーター」を育成



佐賀大学プロジェクトA・Fと連携

**(K)産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト**

学生自らがチーフプロデューサーとなり、地域の生産者や企業とチームを組み、佐賀の地域性や食品のもつストーリー性に着目した大学発食品開発を行っている  
 佐賀大学プロジェクトGと連携



**(L)地域社会と連携した交通UDプロジェクト**

連携自治体の中心市街地を対象に地域の交通インフラが抱える課題を発見するための実地調査を行い、原因解明、解決策を考えるための地域活動や、ワークショップ実施  
 佐賀大学プロジェクトFと連携



1. 連携自治体において、学生は「街なかサポーター」の心身機能調査を実施  
 ・認知症疑い、鬱の早期発見（77名）⇒支援機関へ

2. 参加学生285名への調査から
- ①学外活動が4年次の長期実習に及ぼす影響について質問⇒93%の学生が臨床実習への好影響を回答
  - ②実習後の学生の主観的満足度を質問⇒学外活動を多く行った学生の実習満足度が高位
  - ③実習中の客観的評価\*(実習先からの評価)